

令和7年度 第4回豊南地域会議 会議録

■日 時 令和7年9月9日（木）午後2時30分～午後4時15分

■会 場 豊南交流館 第1中会議室 大会議室

■出席者 <委 員>伊勢 宣孝 川上 正弘 宇野 純一 大冨 晃
桑山 正己 小林 輝弥 小林 俊一 相馬 照雄
辻川 厚良 富田 雅司 松本 和市 吉村 久美
山田 勝
※欠席者 岸上 れいこ 小玉 知子 中島 浩

<所管課>松本 一輝（こども・若者政策課 担当長）
森本 夕稀（こども・若者政策課 主事）
小出 貴子（トヨタ地域包括支援センター）
向井 仁那（トヨタ地域包括支援センター）
鈴木 進一（社会福祉協議会 共生推進課）
山下 智美（社会福祉協議会 CSW）

<事務局>吉村 直樹（地域交流課 担当長）
杉浦 由里江（地域交流課 主事）

■次 第

開 会

- 1 グループワーク
- 2 豊田市民の誓い唱和
- 3 会長あいさつ
- 4 所管課の紹介
- 5 検討内容説明
- 6 意見交換会

閉 会

■議 事（要約）

6 意見交換会

【こども・若者政策課】

（こ若）親にとって「預ける」と「見守る」は大きな違いがある。

アンケート内では使い分けが非常に大事だと思う。

学童⇒「預かる」 月額5,500円で有料 こどもの人数に対して必要な大人の人数が決まっており、国のルールに従って運用している。 時間は平日午後6時30分まで、長期休暇も午前7時30分～午後6時30分まで対応している。

これまで1～4年生のみ対象だったが、5、6年生も対象を拡大した。
共働き世帯（同居家族の中で祖父母が65歳未満の場合は就労証明が必要）であれば利用可能である。

アンケート用紙に「放課後児童クラブを使っていますか？」という質問を付け足すと良いかもしれない。

居場所づくり事業⇨「見守る」 毎日開設というよりも見守り側が出来る範囲で実施。
現在は70代でも働く時代、見守る側に参加できる方が減ってきて、実施箇所も減少傾向

豊南地区での居場所づくり事業はウインドミル（第1・3日曜日）、丸山わくわくこどもクラブ（毎週土曜日）など

逆に、増えてきているのは地域学校共働本部による「見守り」

豊南地区の小学校ではやっていないが約30箇所で学校の部屋を使い「見守り」を行っている。

共働本部によって詳細は異なるが、無料で午後5時まで「見守り」を行っている。
こちらは「見守る人」がいる地域で実施されている。

（委員）・検討中の事業について、継続するためのコツがあれば教えてほしい。

⇨保護者のニーズと、地域がおこなうことのギャップがある場合は親からの声があった。

（例）流しそうめん大会 地域は楽しいから企画するが親からしたら衛生面が心配
実際にニーズを確かめながら行う必要がある。

事業実施する際にはこどもの声も大事にしてほしい。こどもが何をやりたいか、も頭に入れてほしい。

【トヨタ地域包括支援センター】

（委員）高齢者の引きこもりをこの事業で引っ張り出したい。良い案があれば教えてほしい。

⇨移動手段の確保が必要、免許返納をしている方も多い。

高齢者の中には社会での役割を果たしたい、貢献したいと思っている方も多く、こどもとの交流は生きがいづくりにつながる。

需要の声はあると思うが、時間帯が合うかどうかと移動手段がどれくらい確保されているかで参加率は変わると思う。

高齢者の活動時間は日中なので、マッチするかわからない。

【社会福祉協議会 共生推進課】

（社協）こどもが集まって自由に遊べる場所、高齢の方も活躍できる場所になると良いと思う。

社協では「やりたい！」という人がいればどのように始めたら良いか、相談に乗る。
ボランティアをしたいという人がいる場合に、支援をしていく立場である。

今回のニーズ調査では子育てに余裕が出てきたお母さんや昼間に時間がある人の声が聞けないので、高齢者に絞らなくても良いと思う。

その他

- (こ若) 学校と家庭しか居場所がない子が増えてきている時代。高齢者の方と一緒にやれるのは良いと思うが、時代が変わって、高齢者も就労している人が増えて皆さんが忙しそうにしている。それぞれのニーズを把握しながら検討を進めることが大事だと思う。
- (社協) いろいろな居場所があって良いと思う。全てを網羅しなければとは考えずに、それぞれが補完し合えば良いと思う。

<次回開催日>

令和7年9月18日(木) 午後6時30分から 豊南交流館